

平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ハタハタ

学名 *Arctoscopus japonicus*

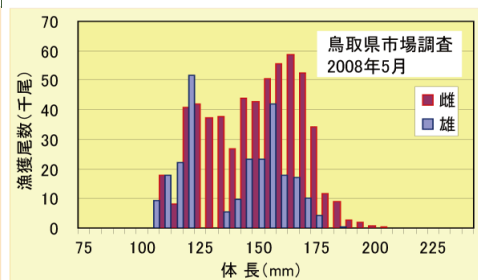
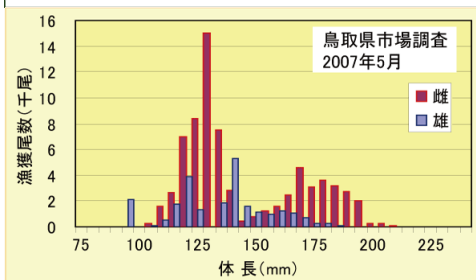
系群名 日本海西部系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 5歳(年齢は、ふ化した年を基準に暦年で示す)
成熟開始年齢: 雄:1歳(100%)、雌:2歳(100%)
産卵期・産卵場: 12月の極短い一時期、沿岸の藻場、西部にはまとまった産卵場がない
索餌期・索餌場: 未成魚期以降の分布と回遊に関する知見は少ない
食性: 端脚類、橈脚類、オキアミ類、イカ類、魚類
捕食者: 大型魚類によって捕食されるが、詳細は不明

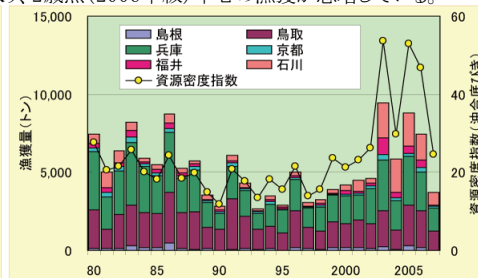
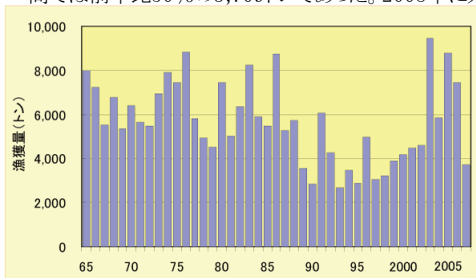


漁業の特徴

兵庫県以西では沖合底びき網、京都府以北では小型底びき網によって主に漁獲され、例年兵庫県と鳥取県の水揚げが多い。漁獲の中心は休漁期前の4～5月、休漁明けの9月である。11～1月の漁獲量は少ない。

漁獲の動向

当海域におけるハタハタの漁獲は、過去50年間ほど5,000トン前後の水準を維持してきた。1970年代後半は韓国及び日本海北部において漁獲量が激減したが、この海域ではハタハタの市場経済的な重要性が高まったものの漁獲は大きく減少しなかった。1990年代半ばから漁獲量は漸増傾向に転じている。2007年には夏季までの漁獲が少なく、年間では前年比50%の3,709トンであった。2008年に入り、2歳魚(2006年級)中心の漁獲が急増している。



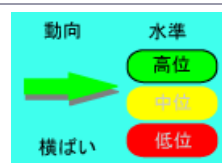
資源評価法

漁獲量の推移とともに、沖合底びき網漁業漁獲成績報告書に基づく漁場別漁獲統計を解析し、1980年以降の資源密度指数*の推移を調べた。加えて、鳥取、兵庫及び福井県における漁獲物の体長組成等から、近年の加入状況、漁獲物の年齢構成を考察した。

*資源密度指数: 10分マス目で設定された漁区ごとの月別CPUE(漁獲重量(kg)/ひき網回数)を一定期間(年または月)、ある海域内(中海区または小海区)で集計した値を有漁漁区数で除したもの。

資源状態

西部海域全域で見ると、2003年に過去50年間で最大の漁獲量、過去25年間で最も高い資源密度指数を記録したが、これは極めて豊度の高い2001年級によるものと考えられる。2004年にはこれらの値が急落したものの、2005年には再び豊度の高い2003年級により資源密度指数が高い値となった。2006年には全域の資源密度指数がやや減少し、さらに2007年には2005年級がほとんど漁場に残らず、年明けから漁獲が低迷した。2008年現在、漁獲を支える2006年級はその豊度が高く、2007年級の加入も順調であることから、本系群の資源水準は依然高いレベルにあり、動向は横ばい傾向にあると判断された。



管理方策

ハタハタの日本海西部系群は、年による変動はあるものの、2003年以降高い水準を維持している。これは2001年級と2003年級が高水準であったことに大きく起因しているが、その後の年級はこれらの豊度には及ばないと見られる。西部系群は1～2歳魚で構成されるため、年級の入替わりのペースが速いことが特徴である。資源状態の変化に応じて、漁獲量を抑えることで資源状態の維持を図るべきと考える。特に、翌年夏までの漁獲を支える1歳魚の保護は重要である。

	2009年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	6,500トン	1.0Cave4-yr	—	—
ABCtarget	5,200トン	0.8・1.0Cave4-yr	—	—

- 100トン未満を四捨五入

資源評価のまとめ

- 2007年の漁獲は低迷したが、これは2歳魚（2005年級）がほとんど漁場に残らなかったことによる
- 2006年級の豊度は高く、2007年級の加入も順調である
- このため、西部系群は引き続き高い水準にあり、横ばい傾向にあると判断された

管理方策のまとめ

- 近年の良好な資源状況を悪化させないよう、漁獲量のある程度おさえて資源の保全に努める
- 2006年級の豊度が高いので、網目拡大等の措置により小型魚保護を進めることが肝要

資源評価は毎年更新されます。